

2021（令和3）年度
事業計画書

自 2021（令和3）年 4月 1日
至 2022（令和4）年 3月31日



公益財団法人 日本盲導犬協会

1. 盲導犬育成事業

本年度（2021年度）は、引き続き①人材育成（特に管理者）、②盲導犬の質、訓練効率の向上、③未来に向けた環境整備、この3つをテーマとした施策を実施する。戦略的な管理職登用により若い人材の育成に重点を置いた上で、盲導犬育成の各工程（繁殖・出産～PW～ケンネル・医療及び研究～盲導犬訓練～共同訓練～アフターケアの一連したプロセス）における技術の更なる向上を目指す。また訓練犬がより安定して過ごせるために犬舎等の環境改善を図る。年間盲導犬ユニット作出目標数は35ユニットとし、コロナ禍の中でもユーザーが安心して盲導犬と生活し、安全に歩いてもらえるフォローアップ体制の充実と共に盲導犬の安定的育成基盤の強化を図る。

（1）視覚障害者に対する歩行指導及び盲導犬貸与

本年度の盲導犬育成目標を35ユニットとし、視覚障害者へ盲導犬を貸与する。

（2）盲導犬の認定等

- ①海外等他団体の育成犬を盲導犬として認定し、当協会の正規の使用者証である「認定証」、②海外からの旅行者に「期間限定証明書」の発行を実施する。

（3）犬の飼育及び訓練

①候補犬の訓練

本年度、候補犬100頭を訓練する。共同訓練に供するまでに、TP (Task Performance) 1、TP2、TPQの3段階のテストを行う。神奈川・仙台訓練センターを訓練重点拠点と位置付けて、他拠点との訓練課題の進捗に応じ、訓練士による相互評価や訓練犬移動などを適宜行い、協会全体の訓練効率を向上していく。

②繁殖

計画的な繁殖・出産・譲渡により、100頭以上を目標とした子犬（パピー）を安定確保する。また繁殖犬の安定飼養頭数に取組み、出産適齢を管理する。健康なパピーの出産と発育、安全で安心な産前産後をはかるために、繁殖犬・幼犬の飼育指導改善、健康理由・稟性理由によるCC犬の減少、ユーザーとの組み合わせに適したタイプの犬を出産させることを目指し、育種価の向上等交配計画改善に重点を置く。

③パピーウォーキング委託

100頭のパピーをパピーウォーカー（PW）に委託する。

パピー飼育期間に、パピーの早期社会化、早期学習、早期評価検証データの蓄積等の取り組みを更に改善し、PWの理解と協力を得て早期課題解決に取り組む。

また、対象パピーに対する評価や観察力を向上する為の環境整備を継続する。

④島根あさひ盲導犬パピープログラム

盲導犬パピープログラム13年目は対象犬を4頭とし、より効果的、効率的なプログラムを検討・実施する。そこで得られた知見を、一般のパピープログラムへ

の応用を図る。

⑤引退犬飼育

本年度内に予定される盲導犬の引退は25頭である。富士ハーネス引退犬棟及び引退犬飼育ボランティアと連携し、引退犬のQOL向上に努める。

⑥犬舎・医療管理

引き続き、訓練犬の健康・健全状態を維持するため、ケネル業務の質の向上と効率化を図る。獣医師の指導に基づき、疾患の早期発見、発病件数の軽減をすすめ、盲導犬育成訓練成功率の向上を支える。加えて大学獣医科病院・専門医における医療協力体制の拡充や緊急医療体制も更に強化する。

(4) 盲導犬ユーザーに対するフォローアップ (F U)

①定期F U、②問題解決F U、③その他に分類されるF Uのうち、特に共同訓練直後～1年以内のアフターケア期間の充実をはかる。

貸与後1年以内のユーザーを対象に宿泊型F Uとして拠点毎に盲導犬新ユニット出発式を実施する。通年では盲導犬歩行状況等情報に基づき、歩行安全性確保のために各訓練センターあるいは現地での問題解決F Uを行う。加えて犬年齢6歳時を対象に集中型のF Uを定着させる。

フェイスタイムの利用など、リモートによるF Uも積極的に検討、実施を図る。

(5) 盲導犬訓練技術の向上

盲導犬訓練工程の課題は、訓練技術強化、訓練期間の短縮と成功率の向上である。盲導犬訓練士、盲導犬歩行指導員の基礎訓練・共同訓練技術の向上をはかるため、技術評価、スキルマップの活用による計画的O J T、集合研修を行う。

また共同訓練工程では、T P Qテスト合格犬を使用予定者に合わせてカスタマイズ訓練をすることでマッチング適正率をより向上させる。

加えて、盲導犬歩行に関する実務的な研究を行い、新たな技術・手法等の習得や研究発表大会を開催し、訓練士間での共有を図る。歩行支援技術の研究にも取り組み、安心安全歩行に繋がる補助具開発を継続する。

(6) 各種研修会への参加

協会内教育や各種研修会等への参加、自己研鑽や自主研究を奨励する。

(7) 犬舎・施設改修整備

訓練センターの役割・盲導犬育成規模、新たな犬舎機能、福祉施設としての社会的役割などを検討し、訓練センター整備基本計画を作成する。その計画に基づき、本年度は、神奈川訓練センターの犬舎棟の改築設計図作成および改築着手、富士ハーネス引退犬棟改築を重点に実施。広島訓練センターの新築構想、仙台訓練センター改築構想は長期的な視点で、必要性を鑑みて、具体案を検討する。

2. 盲導犬歩行指導員等育成事業

- (1) 盲導犬訓練士（GDT）として、4名を養成する。
盲導犬准訓練士（盲導犬訓練士研修生）に対して、連合会主催の盲導犬訓練士資格試験の受験を推薦できる指導技術レベルに達するように計画的に指導する。
訓練士学校2年生として、4名を養成する。
准訓練士資格取得できるレベルに達するように計画的に指導する。
- (2) 盲導犬歩行指導員（GDI）として、1名を養成する。
盲導犬訓練士有資格者（歩行指導員研修生）に対して、連合会主催の盲導犬歩行指導員資格試験の受験を推薦できる指導技術レベルに達するように計画的に指導する。
- (3) 盲導犬歩行指導力のレベルアップ
白杖歩行指導員養成のプログラムを実施し、盲導犬使用者に対する指導力のレベルアップをはかる。

3. 調査研究事業

盲導犬の質の確保、健康面の改善、成功率の向上を目的に調査・研究活動を推進する。

- (1) 盲導犬の人工繁殖・育種技術の研究の継続および疾患改善の調査
繁殖技術向上を目的に受胎率向上（排卵日予測など）、皮膚疾患低減や緩和要因解明、犬の四象限分析による繁殖犬毎の傾向分析と交配組合せ適正化等に取り組む。
- (2) 大学との研究協力・連携
 - ①新規気質評価への協力により、遺伝子解析含め盲導犬成功率との関連性解明に継続して協力する。
 - ②イヌのストレス応答性の研究協力
 - ③GDBartスコアの提供により育種価算出研究
 - ④東京大学盲導犬歩行学講座において、盲導犬ゲノムプロジェクトに協力し、出現する確率の高い遺伝子共通疾患の解明に取り組む。また稟性（気質）とゲノムとの関連性解明に着手する。

4. 視覚障害支援事業

目の見えない、見えにくい人へ盲導犬歩行や視覚障害リハビリテーションに関する情報提供ならびに訓練サービスの提供を行う。特に、見えにくくなりはじめて、どこの支援機関とも繋がることのできない当事者を救うべくことへ重点をおく。視覚障害リハ団体、教育機関、眼科医、そして、特に行政との連携を強化し、地域における視覚障害リハビリテーション拠点の中心となる。コロナ禍であっても、昨年度から開始したオンライン企画の良さも最大限利用し、出来ることを実施し、当事者を安心できるように努める。このような動きが結果として、新しい盲導犬ユーザーの開発に繋がる。

(1) 盲導犬歩行についての理解促進とリハビリテーション相談

視覚障害リハビリテーション団体、視覚支援学校、眼科医および障害福祉関係団体と行政と連携して、視覚障害者の移動に関するリハビリテーション相談及び説明会等を実開催とオンラインを併用して実施する。とくに視覚障害者の身近にいる行政職員とともに、有用な情報を視覚障害者に正確に速やかに提供できるようにし、深い理解の促進をはかり、一人でも多くの盲導犬希望者を募る。

盲導犬体験歩行会 85回

盲導犬説明会 32回

目の見えない・見えにくい人向け盲導犬オンラインセミナー 12回

行政職員向け盲導犬オンラインセミナー 12回

(2) ユーザーコミュニケーション

盲導犬や視覚障害リハビリテーションに関する情報提供や相談によって犬の技術面以外においてもユーザーをサポートする。訓練部と連携し、盲導犬ユーザーの満足度向上のため、以下の事を実施する。

- ① 盲導犬ユーザーに対して、技術的なFU以外の側面において情報提供や各種相談に応じる。
- ② 盲導犬ユーザーからの聞き取りにより、盲導犬歩行状況や健康・生活状況を把握し、盲導犬歩行上の課題の早期発見につとめ、訓練部によるFU実施につなげる。
- ③ 盲導犬6歳時コミュニケーション会の実施。6歳を迎える盲導犬を使用する盲導犬ユーザーを対象に、犬のシニアライフや引退から代替に向けての説明やアドバイスを行う。実開催とオンラインでの実施。
- ④ 様々な災害時や新型コロナウイルスなどにおいて、ユーザーの安否確認や生活状況の聞き取り調査を行う。また、盲導犬に関する防災訓練等にも積極的に関わっていく。

(3) 視覚障害者在宅生活訓練（視覚支援学校での白杖歩行訓練も含む）

全拠点で1,000コマの在宅訓練を実施する。神奈川訓練センターでは、新たに首都圏の視覚障害の方を対象に開始する。

(4) 視覚障害リハビリテーション相談

盲導犬希望者、盲導犬ユーザー、短期リハ希望者、歩行訓練希望者、その他視覚障害者の相談に応じる。

(5) 短期リハビリテーション

スマイルワン仙台で5回、神奈川訓練センターと富士ハーネスで各1回開催する。スマイルワン仙台では訓練センター外での現地短期リハビリテーションや中学生を対象とした学生短期リハビリテーションも開催する。

(6) 視覚障害児キャンプ

スマイルワン仙台で開催する。将来の盲導犬ユーザーを育て、視覚障害児のQOLの向上に貢献する。

(7) 各種研修会への参加

- ①各種学会等への研究発表を促進し、職員を派遣する。
- ②協会内研修会を開催し、リハビリテーション技術の向上をはかる。

(8) 生活講習会の開催

見えにくくなり始めた視覚障害者の生活に関すること、スマートフォンや化粧などの当事者向けの講習会や当事者家族や東日本大震災被災地域での視覚障害支援に関する支援者向けの講習会を開催する。

(9) パートナーズを年4回発行する

5. 広報・普及推進事業

盲導犬を知ってもらう普及事業から盲導犬の受け入れ拒否のない社会づくりを目指した普及推進活動により重点をおき、視覚障害当事者を含めた社会全体が盲導犬歩行を視覚障害者の一つの歩行手段として正しく理解できるよう情報を発信する。

視覚障害者が盲導犬と共に行きたい時に行きたい場所に行くことができる、受け入れ拒否の無い、事故を未然に防ぐことができる、視覚障害者をあたたかい目で支える社会をつくる一翼を担っていく。そして、支援者との笑顔のコミュニケーションを大切に、「Heart to Heart」の精神で普及推進活動に取り組む。

(1) センター内普及推進活動

各訓練センターでは、多くの市民・団体の方々に盲導犬デモンストレーションや、盲導犬ユーザーの講話を提供する。視覚障害者の介添方法などの体験学習を通して、視覚障害者が社会参加しやすい社会を醸成していく。

① 富士ハーネス

個人・団体の見学者を積極的に受け入れ、盲導犬と視覚障害の正しい理解を促進する。また、盲導犬デモンストレーションの提供方法・展示物・掲示物・見学方法、の改善を繰り返し、最新情報の提供に取り組む。

② その他のセンター

定期的な見学会を実施。盲導犬ユーザーの講話や、手引きや視覚障害体験等を通して、盲導犬と視覚障害に対する理解促進をはかる。また、学校・団体からの依頼に対し見学会を行い福祉教育の一翼を担う。

(2) センター外普及推進活動

多くの市民が集うさまざまな場所へ盲導犬の受け入れ促進、盲導犬と視覚障害への正しい理解につなげるため積極的に訪問する。盲導犬デモンストレーションや盲導

犬体験歩行、ふれあい活動を実施し、多くの情報を発信する。

① 盲導犬小中学校キャラバン

全国の小中学校への訪問活動を積極的に実施。次世代を担う児童・生徒達に盲導犬と視覚障害の正しい情報・知識を提供する。

② 視覚障害者サポート・盲導犬受け入れセミナー

小売店・飲食店・宿泊・医療機関・交通事業者向けに実施。視覚障害者への適切な情報提供や移動支援、障害の捉え方について講習し、視覚障害者を取り巻く社会環境整備と受け入れが当たり前となる地域づくりを目指し、理解を深める。

③ ふれあい広場

大型商業施設の協力を得て、盲導犬とのふれあい活動や盲導犬デモンストレーションを実施し、多くの方々への理解を促進する。

⑤ 団体での普及推進活動

盲導犬ユーザー・ボランティアと街頭に立ち、普及推進活動を展開する。通行する方々へメッセージを発信し、盲導犬事業への理解に努める。

⑤ 首長訪問

盲導犬ユーザー在住の首長訪問を行い、住みやすい街づくりの協力を依頼する。また、報道機関の協力を得て、多くの市民に情報発信する。

⑥ 動物介在活動（AAA）・動物介在療法（AAT）

全国の病院・福祉施設等への訪問を実施。犬とのふれあいを通じて、入院患者、入所者への動物介在活動を行う。また医療機関での動物介在療法に協力、発展に貢献する。

⑦ アドボカシー活動

盲導犬ユーザーから「受け入れ拒否があった」「当事者では解決できない」という訴えに対し、問題解決の対応を積極的に行う。

⑧ オンライン配信での普及推進活動

コロナ禍での盲導犬や視覚障害への理解促進方法として、ZOOMやYouTubeなどを用いたオンライン配信による普及推進活動を検討、実施する。

⑨ その他

第28回 盲導犬育成チャリティゴルフ大会を開催

10月12日（火）もしくは10月19日（火）開催予定

会場 厚木国際カントリー倶楽部

(3) 広報

① マスメディアでの広報活動

協会事業、盲導犬・視覚障害への理解と真の共生社会を目指し、マスメディアを活用して積極的なメッセージ発信を行う。

② ホームページ・電子コンテンツ運営

ホームページコンテンツの拡充を図り、動画配信他各種SNSを活用した情報発信力を引き続き強化していく。

③ 会報誌「盲導犬くらぶ」の発行・発送

年4回各5万部の会報誌「盲導犬くらぶ」発刊。SNSと連動した企画等ニーズに即した新たな会報誌の形態を構築する

④ 情報管理

情報管理を徹底し、リスク管理体制を強化する。

6. 関係団体協力事業

(1) 日本盲導犬協会ユーザーの会、ボランティア委員会との協力・連携を深め、協会事業の発展と事業の質を向上させる。

(2) 全国盲導犬施設連合会、全日本盲導犬使用者の会、アジア・ガイドドッグ・ブリーディング・ネットワーク（AGBN）など盲導犬育成関連団体との関係強化と相互発展をはかる。

(3) 視覚障害リハビリテーション協会、日本身体障害者補助犬学会との連携や、県市社会福祉協議会、介助犬育成団体、聴導犬育成団体等およびその他視覚障害関係団体と協力し、福祉事業としての一層の充実と発展をはかる。

(4) 国際的な協力関係

国際盲導犬連盟（IGDF）に理事およびアセッサーを派遣し貢献する。各種交流を通して国際的な協力関係を強化する。

7. その他

(1) 未来構想推進（井上ビジョンの展開）に基づき次の諸活動を行う。

東京大学盲導犬歩行学連携講座において各種研究活動を行う。

(2) ACジャパンによる「支援キャンペーン」の実施。

2020年度は6月30日まで実施される。2021年度は視覚障害当事者に対して盲導犬等を利用した外出を呼びかけることを目的とした広告活動を7月1日から行う。

(3) 人材育成

① 自由研究・調査、自己普及推進、QCサークル活動を積極的に応援し、12月に協会内の研究発表大会を開催する。さらに、協会内発表を経て、各種学会やセミナー等にて積極的に発表する。

② 福祉に携わる職員のための研修会や同行援護従事者研修に職員を派遣し、視覚障害福祉に必要な知識と技術を習得させる。

⑤ 人財を生かすキャリアパスプランを作成し現任者教育の充実を図る。

(4) 東日本大震災支援

震災から10年になる本年度、被災地域にあるスマイルワン仙台において、震災被災者への各種講習会や必要な更生相談、リハビリテーション支援を行う。また、日本盲人福祉委員会が行う東日本大震災被災者調査や大災害時における視覚障害者支援事業に協力する。

(5) 協会ICTインフラの活用

多用な働き方に対応するためのシステム構築および環境整備4年目。2020年度から継続し、訓練部データベース、寄付管理データベースのブラッシュアッププロジェクトを進行する。システムのクラウド化、ワークフローシステムの導入等、次世代型ICTインフラの導入および入れ替えを進める。